（別紙様式４）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成28年8月30日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
北海道ｴｺ・動物 自然専門学校	平成10年4月1日	佐藤　俊	〒061-1373　北海道恵庭市恵み野西５丁目10-4 （電話）0123-36-2311
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人産業技術学園	昭和63年1月5日	宮川　藤一郎	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番 （電話）0123-36-8119

目的	世界的な環境保全の高まりを背景に、残る自然環境を維持保全し発展させる大志を持つ人材と、飼育動物を通じて生物多様性の重要性と、それを支える飼育繁殖技術を習得し、それを表現し、理解と共感を得る飼育員とインタープリターを養成します

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
	商業実務課程	動物自然学科	平成6年文部科学大臣 告示84号	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
年	昼間	1860	630	600	630		

生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160 人の内数	125 人の内数	4 人の内数	15 人の内数	19 人の内数

学期制度	■1学期：４月１日～９月３０日 ■2学期：１０月１日～３月３１日 ■3学期：	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 平常点、定期試験
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏季：7月から9月までの間で6週間以内 ■冬季：12月から1月までの間で6週間以内 ■学年末：3月から4月までに間で5週間以内	卒業・進級条件	必修科目・選択必修科目を履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。
生徒指導	■クラス担任制：　有 ■長期欠席者への指導等の対応 1欠席ごとに電話連絡2欠席で保護者連絡	課外活動	■課外活動の種類 宿泊研修・学年交流会・学園祭・アウトドア部 ■サークル活動：　有
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ペットショップ、動物園、牧場、 アウトドアショップ、ガイド会社 ■就職率※1　：　98 % ■卒業者に占める就職者の割合※2 ：　98 % ■その他 卒業生全員就職希望 （平成　27　年度卒業者に関する 平成28年8月30日 時点の情報）	主な資格・検定等	愛玩動物飼養管理士２級 生物分類検定3級 生物分類検定4級 メディックファーストエイド スイフトウォーターレスキュー プロジェクトワイルドエデュケーター プロジェクトWET
中途退学の現状	■中途退学者　0 名　■中退率　0 % 平成27年4月1日時点において、在学者58名（平成27年4月1日入学者を含む） 平成28年3月31日時点において、在学者58名（平成28年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由		
	■中退防止のための取組 習熟度別クラス編成及び授業内容。放課後活動の充実。具体性のある進路表現。		
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	URL：http://eco.hht.ac.jp/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的に実施することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための連携体制等を行う機関として活動し、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業教育を行うことを目的とする。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名　前	所　　属	任期	種別
重信　隆夫	特定非営利活動法人北海道ボランティアドッグの会　理事	2015.9月～　2017.8月	①業界団体役職員
近藤　幸司	よつば動物病院　医院長	2015.9月～　2017.8月	③企業･関係施設役職員
吉田　俊介	胆振軽種馬農業協同組合青年部　　部長	2015.9月～　2017.8月	①業界団体役職員
田中　秀俊	田中動物病院　院長　胆振獣医師会　　会長	2015.9月～　2017.8月	③企業･関係施設役職員
樋原　均	北海道ペット事業協同組合　　理事長	2015.9月～　2017.8月	①業界団体役職員
横倉　利明	エヌディシーデニ有限会社　　代表取締役	2015.9月～　2017.8月	③企業･関係施設役職員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（開催日時）
平成28年2月20日　10:00～12:00　　北海道エコ・動物自然専門学校　図書室
平成28年11月15日　10:30～11:30　　北海道エコ・動物自然専門学校　図書室
平成29年2月　　13:00～15:00 （予定）　北海道エコ・動物自然専門学校　図書室

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

カリキュラム構築においての社会的要望、業界的要望を反映させる為、業界の第一線企業との連携を図る。編成委員会と共に随時カリキュラム評価を行い、学生授業アンケート、第三者評価をもとに企業、業界からヒアリングし、再度、編成委員会会議にて議論し見直す。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

動物園や牧場等の研修に参加することで、業界を知る機会とし、また、実際に各業界へ約2週間にわたり業界研修に行くことにより、日々進化する最新の技術知識を肌で感じる機会を設け、その後の授業において、研修での経験を活かし即戦力となる人材の育成を目指すとともに、動物に携わる者としての基本的精神を養う

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

現場実習を通じ、企業・業界の第一線で活躍する方々からの直接指導をいただき、将来の夢を現実のものへと意識を具体化する。さらに、一人一人の評価表をいただき達成できていない項目に関しては引き続き学校での指導とする。

（3）具体的な連携の例

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
業界研修	ガイド・調査・飼育等の自然・動物に 実践的に関わる技術を身につけます。	那須どうぶつ王国、神戸どうぶつ王国 ノーザンファーム、富士サファリ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 滋慶教育科学研究所研修主催、教職員カウンセリング研修・進路アドバイザー研修・キャリア教育カウンセラー研修等により教授力向上および、カリキュラムに反映することを目指す。
（2）研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 野生動物救護研修会（11月）、日本動物園水族館協会施設会議（11月）、日本蜻蛉学会（10月）、 北海道アウトドアフォーラム（11月）各1名 ②指導力の修得・向上のための研修等 担任研修（6月）、カウンセリング研修1次（9月）、FDミクロレベル研修（6月）各2名 （3）研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 野生動物救護研修会（10月）、日本蜻蛉学会（5月）、北海道アウトドアフォーラム（10月）各1名 ②指導力の修得・向上のための研修等 FDミクロレベルアップ研修（6月）、カウンセリング研修2次（9月）、職業実践研修会（7月）各1名

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか
（2）学校運営	2-4運営方針は定められているか　2-5事業計画は定められているか
（3）教育活動	3-10各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の
（4）学修成果	4-19就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が
（5）学生支援	5-23就職に関する体制は整備されているか
（6）教育環境	6-31施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されてい
（7）学生の受入れ募集	7-34学生募集活動は適正に行われているか
（8）財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
（9）法令等の遵守	9-42法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか
（10）社会貢献・地域貢献	10-46学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
（11）国際交流	11-48グローバル人材の育成に向けた国際交流などの

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議（定例会毎週1回）にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会（定例会月1回開催）」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善にを実施している。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名　前	所　　属	任期	種別
佐藤翔太	卒業生（株式会社北海道造園コンサルタント　副部長	2015.9月～　2017.8月	卒業生
要害　利江	ペット学科保護者	2015.9月～　2017.8月	保護者
大場　真哉	帯広大谷高等学校　教諭	2015.9月～　2017.8月	高等学校
山田　裕一郎	山田アートフィルム	2015.9月～　2017.8月	近隣関係
近藤　幸司	よつば動物病院　医院長	2015.9月～　2017.8月	企業等委員
吉田　俊介	株式会社ノーザンホースパーク　取締役	2015.9月～　2017.8月	企業等委員
樋原　均	株式会社ペットハウステン・テン　代表取締役	2015.9月～　2017.8月	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他（　　）　）
URL:　http://eco.hht.ac.jp/albums/abm00022717.pdf

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校の概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科等の教育
（3）教職員	（3）教職員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動・教育環境
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	（10）国際連携の状況
（11）その他	（11）その他

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
HP　http://eco.hht.ac.jp/news/index_jouhoukoukai.html

授業科目等の概要

（商業実務専門課程動物自然学科）平成２８年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			講読演習Ⅰ	社会の仕組みや就職する上での心構え、動物・自然業界の現状などを学びます。	1前	30	1		○		○		○		
○			講読演習Ⅱ	社会の仕組みや就職する上での心構え、動物・自然業界の現状などを学びます。	1後	30	1		○		○		○		
○			講読演習Ⅲ	社会の仕組みや就職する上での心構え、動物・自然業界の現状などを学びます。	2前	30	1		○		○		○		
○			マナー講座	社会人として必要な、挨拶、対人スキル、電話対応など一般的な常識を学びま	1後	30	1		○		○			○	
○			環境教育論Ⅰ	動物・自然の魅力を伝える手技及び表現力と、豊かな人間性を育みます。	1前	30	1		○		○			○	
○			環境教育論Ⅱ	動物・自然の魅力を伝える手技及び表現力と、豊かな人間性を育みます。	1後	30	1		○		○			○	
○			環境教育論Ⅲ	動物・自然の魅力を伝える手技及び表現力と、豊かな人間性を育みます。	1前	30	1		○		○			○	
○			プレゼンテーション演習Ⅰ	２年間の集大成として、論文作成または卒業制作に取り組み、成果を公表しま	2前	30	1		○		○		○		
○			プレゼンテーション演習Ⅱ	２年間の集大成として、論文作成または卒業制作に取り組み、成果を公表しま	2後	120	4		○		○		○		
○			生物学Ⅰ	生命科学の基本である生物のしくみを学びます。	1前	60	4	○			○			○	
○			生物学Ⅱ	生命科学の基本である生物のしくみを学びます。	1後	60	4	○			○			○	
○			生態学Ⅰ	野生動物が生活している環境を知り、環境が動物に与える影響を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
○			生態学Ⅱ	野生動物が生活している環境を知り、環境が動物に与える影響を学びます。	1後	30	2	○			○			○	
○			保全生物学Ⅰ	人間活動が種・群集・生態系に与える影響を学びます。	2前	30	2	○			○			○	
○			保全生物学Ⅱ	人間活動が種・群集・生態系に与える影響を学びます。	2後	30	2	○			○		○		
○			生物分類学概論	生物の基本的な分類をその性質に基づき分け、その分類法と規則について学びま	1前	30	2	○			○		○		
○			両生爬虫類学Ⅰ	変温動物である脊椎動物の生物学的見地から分類・分布・生理・生態まで幅広く学びま	1後	30	2	○			○			○	
○			両生爬虫類学Ⅱ	変温動物である脊椎動物の生物学的見地から分類・分布・生理・生態まで幅広く学びま	2前	30	2	○			○			○	
○			インタープリテーションⅠ	身に付けた知識・技術をアウトプットする手技を学びます。	1前	30	1		○		○			○	
○			インタープリテーションⅡ	身に付けた知識・技術をアウトプットする手技を学びます。	1後	30	1		○		○			○	
○			業界実務実習Ⅰ	ガイド・調査・飼育等の自然動物に実践的に関わる技術を身につけます。	2前	90	2			○		○		○	
○			業界実務実習Ⅱ	ガイド・調査・飼育等の自然動物に実践的に関わる技術を身につけます。	2前	90	2			○		○		○	
	○		飼育実習Ⅰ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	1前	180	4			○	○		○		
	○		飼育実習Ⅱ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	1後	180	4			○		○	○		
	○		飼育実習Ⅲ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	2後	180	4			○		○	○		
	○		飼育実習Ⅳ	実際に動物を飼育し、実践的に学びます。	2後	180	4			○		○	○		
	○		動物飼育講座Ⅰ	エキゾチックアニマルや、動物園動物の飼育管理や調教を学びます。	1前	30	1		○		○		○		
	○		動物飼育講座Ⅱ	エキゾチックアニマルや、動物園動物の飼育管理や調教を学びます。	1後	30	1		○		○		○		
	○		動物飼育講座Ⅲ	エキゾチックアニマルや、動物園動物の飼育管理や調教を学びます。	1後	30	1		○		○		○		

	○		畜産学	産業動物（牛、馬、羊、豚）の飼養管理や用途、歴史について学びます。	1後	30	1		○		○			○	
	○		動物飼料学	栄養の基礎、食生活の重要性、処方食まで、適切な栄養管理について学びます。	1後	30	1		○		○			○	
	○		繁殖学	生殖に関する生理解剖および産前産後の母体および産仔の管理とその実践を学びます。	2前	30	1		○		○			○	
	○		アニマルトレーニング論	学習理論を用いた、様々な動物のトレーニング法を学びます。	1後	30	1		○		○			○	
	○		霊長類学	霊長類特に類人猿の生態学、行動学から飼育繁殖まで、幅広く学びます。	1後	30	1		○		○			○	
		○	動物園学Ⅰ	動物園の役割と社会的意義、教育施設としての効果、過去と現在の日本人の動物園観を学びます。	2前	30	1		○			○		○	
		○	動物園学Ⅱ	動物園の役割と社会的意義、教育施設としての効果、過去と現在の日本人の動物園観を学びます。	1後	30	2	○			○			○	
		○	獣医学概論	発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する。	2前	30	1		○			○		○	
		○	薬理学	薬の作用機序と有害作用並びに、獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を理解し、薬剤を正しく扱えることを目指す。	2前	30	2	○			○			○	
	○		犬学	イヌの性質、家畜化の歴史、犬種特異性。	1前	30	1		○		○			○	
	○		動物行動学	動物を理解し、確実に扱うために必要な行動や習性について学びます。	2前	30	1		○		○			○	
	○		解剖学Ⅰ	動物の解剖生理について、講義演習形式で学びます。	1前	60	2		○		○			○	
	○		解剖学Ⅱ	動物の解剖生理について、講義演習形式で学びます。	1後	60	2		○		○			○	
	○		衛生学	動物の疾病、予防、細菌、菌、ウィルスなどの生態を学びます	2前	30	1		○		○			○	
	○		馬学	馬の解剖、生理、生態、体の名称、馬事、歴史などを学びます。	2後	30	1		○					○	
	○		生物分類学Ⅰ	生物の基本的な分類をその性質に基づき分け、その分類法と規則について学びま	1前	30	2	○			○		○		
	○		生物分類学Ⅱ	生物の基本的な分類をその性質に基づき分け、その分類法と規則について学びま	1後	30	2	○			○		○		
	○		動植物基礎講座Ⅰ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	1前	30	1		○					○	
	○		動植物基礎講座Ⅱ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	1後	30	1		○					○	
	○		動植物基礎講座Ⅲ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	2前	30	1		○					○	
	○		動植物基礎講座Ⅳ	動植物に関する基礎的知識を学びます。	2後	30	1		○					○	
	○		動植物講座Ⅰ	動植物の探し方、特徴、同定方法等を学び、各相への理解を深めます。	1前	30	1		○					○	
	○		動植物講座Ⅱ	動植物の探し方、特徴、同定方法等を学び、各相への理解を深めます。	1後	30	1		○					○	
	○		動植物講座Ⅲ	動植物の探し方、特徴、同定方法等を学び、各相への理解を深めます。	2前	30	1		○					○	
	○		動植物講座Ⅳ	動植物の探し方、特徴、同定方法等を学び、各相への理解を深めます。	2後	30	1		○					○	
	○		フィールドワーク演習Ⅰ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	1前	60	2			○			○		
	○		フィールドワーク演習Ⅱ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	1後	60	2			○			○		
	○		フィールドワーク演習Ⅲ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	2前	30	1			○			○		
	○		フィールドワーク演習Ⅳ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	2前	30	1			○			○		
	○		実践トレーニングⅠ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	1前	90	2			○			○		
	○		実践トレーニングⅡ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	1後	90	2			○			○		
	○		実践トレーニングⅢ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	2前	90	2			○			○		
	○		実践トレーニングⅣ	業界人として必要な知識やスキルを実践的に習得します。	2後	90	2			○			○		
合計				40～44　科目	1860時間以上（76単位以上）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	１学年の学期区分	２期
	１学期の授業期間	１５週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。